令和５年度

自己点検・自己評価報告書

令和６年６月３０日

学校法人稲積学園
北都保健福祉専門学校

目　次

Ⅰ　はじめに----------1

Ⅱ　評価の基本方針----------1

Ⅲ　教育関連重点目標の評価----------1

Ⅳ　項目ごとの記述----------3
（１）　教育理念
（２）　学校運営
（３）　教育活動
（４）　学習成果
（５）　学生支援
（６）　教育環境
（７）　学生募集
（８）　財務
（９）　法令等の遵守
(10) 社会貢献及び地域貢献

Ⅴ　終わりに----------６２

Ⅰ はじめに

令和５年での大きな変化は、新型コロナ感染症の５類への格下げ措置（令和５年５月８日）による人々意識の変化である。この措置は、あたかも「コロナ禍の収束した」という印象を人々に与えている。確かに、度重なるウイルス変異の結果、感染力は相変わらず強いものの、感染後の症状がかなり穏やかになってきたことが大きく影響している。そのため、もうこれ以上、社会として厳しいコロナ対策は必要なく、以前のような自由行動が可能になったと考える風潮になってきた。

しかしながら、入院患者さん、抵抗力の弱い高齢者、健康弱者などにとっては、依然として警戒を継続しなければならない事態が継続している。そこで、医療従事者や医療施設に臨床実習をする学生達も、常に万が一の対策を取らねばならないという視点で、この１年間の教育活動を行ってきた。

それらの総括として、毎年４月から６月にかけて、前年度の活動全般に関する自己点検・自己評価を行っている。各項目の達成度は1～４点の評価点によって点数化する。その上で、次年度に向けた対応策を考えてまとめていく。その際、評価項目の追加や削減なども合わせて考慮していく。

今年度の自己点検・自己評価で気になったことは、達成度が極端に低下した項目が複数存在していたことである。毎年、様々な項目の達成度調整をはかるため、バランスよく各項目への働きかけを行なってきたのであるが、想定外の結果になることもある。

以下に、今年度の活動結果を自己点検自己評価としてまとめ、報告書を認めた。

Ⅱ 評価の基本方針

本校の３つの教育目標である「信頼されるプロに育てる」、「学生と教員もお互いに学びあう」、「チャレンジを楽しめる教育を提供する。」に基づき、教育活動や学校運営の基本方針に盛り込んでいる。また、その方針に従って項目の削減や追加という手直しも行っている。

特に、本年度は、来年度の職業実践専門課程申請を踏まえた対応を進めてきたため、評価項目（小項目）を５２から５９に増やした。それらの中から４５項目を選択し、学校関係者評価委員会に客観的評価を依頼したので、詳細はそれらの報告書を参考にしてほしい。

Ⅲ 教育関連重点目標の評価

本校を取り巻く環境は、毎年大きく変化しており、特に、過去４年間の学校活動は、コロナ禍の対応という状況により、本来行うべき対応を必ずしも十分に実施できなかったことが影響していた。そのような状況下でも、基本方針から、以下の７項目を重点目標として、何かと働きかけを行ってきたので、まずは、それらの評価結果を以下に記載した。

評価自体は、達成度を中心とした記載になっているが、それらへの働きかけとは単純に比例していないことも多い。しかし、現実と向き合い、問題点があるならそれらの解決に向かって働きかける対応は、学校教育活動や学校経営活動の視点から真摯に実施していくべき

と考えている。

	重点項目	評価 （４点満点）	現状	課題と対策
1	国家試験 合格率	３．２	ＰＴやＮＳは良好であるが、ＯＴはまだ以前の良好なレベルまで回復していない。	全体的にはさらなる合格率向上を目指すことができると考えられるため、一層の対応を期待する。
2	修学支援	４	担任や学科長を中心に丁寧な対応を続けており、評価に値する。	このまま現状を維持してほしい。
3	授業満足度	３．２	授業内容の理解度に関しては半数ほどが不満であるという学生アンケート結果から、改善が必要とされている。	特に、履修状況が望ましくない学生の底上げをはかる対応が強く期待される。
4	退学・休学率	２．５	これまで年々改善されてきたが、今年度、３学科平均で７％台と少し悪化した。	３％未満を目標として創意工夫を重ねる必要性がある。
5	学生募集	１．５	前年の良好な広報活動に従ってほぼ同様に対応したが、結果は過去最低水準に陥ってしまった。	年々変化する状況に大きく影響される面もあるが、それらの動向を入念に分析し、望ましい対策案を果敢に推進していくべきである。
6	事務効率化	３	事務部門内での情報共有や３学科との連携も必ずしも十分ではない。	今後２年間で事務員数減が見込まれるため、さらなる業務遂行上の協力が期待される。
7	教職員研修	２	教職員の研修実施状況は必ずしも十分であるとは言い難い。	長期的な研修は規定上制約もあるが、短期の研修により業務改善や経験を積み重ねてほしい。

No　1

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	建学の精神（教育理念）、教育目標、教育方針、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、デイプローマポリシー、アセスメントポリシーを定め、それらによって本校の理念・目的・育成人材像を明確にする。
現状	本校は、建学の精神（教育理念）、教育目標、教育方針に加え、昨年度はアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプローマポリシー、アセスメントポリシーを策定した。それらをもとに、本校の理念・目的・育成人材像を具体的に示しながら、３年ごとに中期計画の実施と見直しを行なっている。令和５年度からは第２期中期計画（１年目）による教育活動がスタートしている。
課題	理念・目的・人材育成に関しては全学的なものは定められているが、本校３学科のそれらは必ずしも明確には定めていない。
解決 改善 方向	理念・目的・人材育成に関して学科ごと特性を、早急に定めて行く計画である。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学校の職業教育の特色を明確にしているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の３つの教育目標を推進するため、理学療法学科、作業療法学科、及び看護学科では各学科の特色を学校案内やホームページなどで公開する。
現状	理学療法学科では「豊かな人間性を携え、自ら進んで成長する力を持ち、地域医療に貢献できる理学療法士を育成する」を、作業療法学科では「作業療法を地域住民の健康増進、保健・医療・福祉・教育・就労支援に寄与するために、関連団体と連携して、協力して活動できる質の高い作業療法士を育成する」を日頃の教育で進めている。看護学科では「生命の尊厳と人間の権利を尊重した豊かな人間性を培うとともに、人間を理解し、その人がその人らしく生きられるように支援できる専門職を育成する。また、地域社会に貢献できる人材を育成する。」を考慮した教育を進めている。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	社会のニーズを踏まえた学園・学校の構想を抱いているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	道北道東の地域医療のニーズに応えていくため、毎年、年度始めに理事長・校長・本部長が学園・学校の構想を教職員に説明し、情報の共有化をはかる。
現状	令和５年３月２４日に教職員全員が参加する教職員会議を開催し、理事長より第２次中期計画が発表され、学校経営方針や施策の説明があった。また、校長より前年度の実績を元にこれまでの現状と教育方針について説明がなされた。これらによって、本年度に強化すべきポイントや重点項目を教職員で共有している。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	理念、目的、人材育成などが高校生やその保護者に周知されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	道北・道東で活躍できる地域医療従事者の人材育成を推進するため、本校の理学療法学科、作業療法学科、看護学科の３学科の教育方針や教育内容を対象者に周知する。
現状	ホームページ、オープンキャンパス、学校説明会などで、本校の理念、目的、人材育成の内容を明らかにしながら、高校生や保護者に説明してきた。そのため、次第に周知される状況になってきたと考えられる。
課題	地域における医療職の需要が増大しつつある状況を鑑みると、特に、理学療法士および作業療法士を目指す高校生には、本校の理念、教育目的、人材育成に関する説明の機会をもっと増やすことが望まれている。
解決 改善 方向	高齢社会におけるリハビリテーション職の重要性や将来の可能性を説明しながら、本校の教育理念、教育の目的、さらには、人材育成についても合わせて説明していく。このような説明がより具体的に伝わることが、最近、明らかになった。そこで、このような視点からあらゆる機会を活用して高校生や保護者に丁寧な説明を実施して行く必要性がある。また、未来の専門家を目指す小中学生に対しても、本校での体験型授業や小中校への出前講座さらには年４回実施される旭川サイエンスフェスティバル（ワクワクサイエンス）でも紹介し始めている。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	理念・目的・人材育成・特色・将来構想などを在学生、保護者、卒業生、地域住民、医療関係者等に周知されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の理念・目的・人材育成・特色・将来構想については、本校のあらゆる活動や広報メデイアを介して周知をはかる。
現状	これまで、オープンキャンパス・進学相談会・ホームページ・ＳＮＳなどを活用して、理念・目的・人材育成・特色・将来構想・最近の実績などを丁寧に説明してきた。さらに、新型コロナ感染症が５類に格下げとなったため、コロナ禍前の対面型の活動が少しづつ増えてきた。
課題	コロナ禍が５類に格下げにより　これまで以上に、高校生、本校学生、保護者、地域住民、その他関係各位への周知が少しづつ進むと期待される。しかしながら、現状では、まだ必ずしも十分でないと認識している。
解決 改善 方向	ホームページ、ＳＮＳ、マチコミ、メルマガなどの活用と共に、対面型の各種企画でも充実をはかっていきたい。

大項目	学校運営	中項目	運営方針			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	目的に沿った運営方針が策定されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	人間性を高める教育や充実した専門教育を通じて地域医療に貢献できる医療人育成を目指す。
現状	2020年のコロナ禍の発生拡大が認められた当時は感染対策を徹底したため、国家試験合格率の顕著な低下を招いてしまった。その後、状況に応じた対応ができてきたことにより、徐々に回復の兆しが見え、以前の良好な合格率に近づきつつある。今年度は５類移行に伴いWeb授業が減り、通常の授業や補講や小人数ゼミ形式の学びが定着してきた。そのお陰で、さらに理解不足の改善と学習意欲を高める対応を進めてきた。
課題	コロナ禍の対応がなされてる中で入学してきた学生がほとんどであるため、平常授業に慣れていない学生も少なくはなく、退学率を低減する対応が遅れている。
解決 改善 方向	修学支援の効果が出てくると国試合格率の上昇や退学率の改善が見込まれるため、昨年度に引き続き、１）わかりやすい授業の推進、２）３学科の学生間交流イベントの再開、３）心理面での問題も含めた悩み相談室の開設、４）国試対策の学びにつながるスムーズな移行、４）教職員に対する学生対応の研修会、などを主な対策としていく。

No　7

大項目	学校運営	中項目	事業計画			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	過去の運営方針を分析評価し、将来３～４年先の予測シミュレーションを行いながら、次年度の年度計画を策定する。
現状	第２期中期計画第１年目（経営方針）として、各委員会や各会議による学校活動を推進させてきた。これまで以上に学内での情報共有化が進み、教職員の協力や分担が進んでいる。国試合格率の結果や学生支援についてはまだまだ問題もあるが、順調な方向に進んでいる。
課題	教職員の業務の協力や分担が進みつつあり望ましいと考えれれるが、一部の教職員に職務の偏重が見られることはまだ改善していない。
解決 改善 方向	情報や業務の共有化を図るため「業務の見える化」を推進していきたい。具体的には、協力を必要とする業務内容を「サイボーズなどの共有ファイルコーナー」にあげ、他の教職員によるサポートをスムーズに進めていきたい。

大項目	学校運営	中項目	運営組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化がなされているか。さらには、有効に機能しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学校の寄附行為および学則等に「教職員が関わる運営組織や職務内容」を明確に規定し、学校活動における機能強化を図る。
現状	寄附行為やその他の規定に鑑み、中期計画で定めた委員会や会議を組織し、必要な案件の審議を行っている。教育活動推進に必要な事項は、速やかに議論を経て決定し、迅速に対応・処理している。決定事項や連絡事項については、会議議事録配付や学科内会議や部署の会議などを介して、情報共有ができている。
課題	新型コロナウイルス感染症が５類に移行してきたため、停止していた教育活動を始め、各種の委員会や会議の開催が動き始めている。今後、状況の変化に応じて新たな対応を進める必要性が考えられる。
解決 改善 方向	学校全体に関わる事項の中にも急な案件などが出てくる可能性があるため、例年以上に速やかに対応するため、稟議書による持ち回り会議、臨時会議、あるいは、臨時委員会などの対応を速やかに行いたい。

大項目	学校運営	中項目	運営組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	情報システムによる業務の効率化が図られているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	教務や事務支援システムの効率化を常に見直し、積極的にＤＸ移行を図りながら学校教育や学校経営活動に広く利用していく。
現状	１０年ほど前に導入した支援システムが現状に合わなくなっていたため、新たな情報共有システム導入が必要となっていた。そこで、前年度はサイボーズオフィースを活用した学内申請システムを導入し、今年度から本格運用した。さらに、フリーソフトをベースに教育共有ファイルシステムを開発し、授業時間割の連絡と管理について試用を進めている。リテラシー向上を図るべく内部で研修会も実施してきた。閲覧者（学生）のみならず管理者（教員）の利便性が既に手応えとして感じられている。
課題	教務だけでなく事務業務の効率化が必要であるばかりか、リテラシー向上やシステム管理を担える人材育成も課題となっている。
解決 改善 方向	本情報共有システムを事務業務の共有化にも拡張していく準備をしており、業務のより速やかな分担や協力に活用したいと考えている。同時に、システム管理を担える人材育成も図っていきたい。

No　10

大項目	学校運営	中項目	意思決定システム			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備させているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	教務関連事項に関しては学科長会議を、財務においては予算委員会をそれぞれ中心とした対応で意思決定し、理事長・校長・本部長の決裁で確定していく。
現状	教務については、現行カリキュラムや学則に基づき、上記事項を実施している。財務においては、事務担当者が決定後の手続処理をおこない、理事長・本部長が管理している。寄附行為における改正等については理事会・評議会の議を経て最終決定している。
課題	医療機関によるコロナ対策に従って、学外実習等の対応で急な変更が発生する場合があり、教務や財務関連事項で教職員間の連携や調整を早急に行う必要性がある。
解決 改善 方向	教務や財務における変更事項は学校運営に影響する場合が考えられるため、予め予測される項目は年次計画に加えておく。また、重大な項目の策定や変更に関しては、速やかに教職員会議などを経て、全ての教職員に周知徹底を図っていきたい。

大項目	学校運営	中項目	情報システム			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学校運営に関わる寄附行為や法令等を遵守し、道庁学事課などから通達事項は教職員全員で共有する。その上で、健全な学校運営を維持するためのコンプライアンスやアカウンタビリティを心がける。
現状	教職員等の規則遵守や説明責任をしっかり果たすため、新たな通達や注意事項に対する情報などの共有は丁寧に行っている。そのためか、規則違反や事故等など報告すべき重大な事例や各種ハラスメントなどの懲罰に至るケースは発生していない。
課題	今後も未然に犯罪や事故等の防止を推進し、重大な状況に陥らないように教育的な指導や対応を充実させていくことが望まれる。
解決 改善 方向	学校内で 学生指導のための各種の啓発セミナーを毎年開催していく予定である。また、あらゆる観点からの学生の修学支援をはかる相談室体制を構築し、問題が深刻にならない段階で解決を図りたい。日頃から学生の出席率を確認しながら、必要に応じた面談やアドバイスをより積極的に進めて行きたい。

大項目	学校運営	中項目	情報システム			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	教育活動を積極的に公開することで、様々な意見を本校の教育改善に活かしていく。
現状	これまで本校の教育活動については、ホームページを通じて各種報告書としてお知らせしている。様々なイベントや課外活動などは、ＳＮＳ、マチコミ、メルマガ等により在学生、保護者、あるいは、ホームページ閲覧者などに公開している。また、オープンキャンパス、職業体験、学校祭などでは、中高生、保護者、参加者に対してグラフやまとめ図などを用いて説明している。
課題	本校の学習やイベント情報はホームページなどで情報公開をしてきているが、隔月で発刊しているメルマガによる情報内容や発信回数に対する要望については毎年保護者等から受けている。
解決 改善 方向	公開すべき情報をわかりやすい資料としてまとめて公開していくのみならず、公開する回数を増やすことで、学生や保護者、さらには、一般の方々からの要望に応える対応を進めて行く見直しは今後も進めていくべきと考えている。

大項目	教育活動	中項目	目標設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の教育理念を基本とした３つの中核目標に基づき、毎年、教育課程の編成・実施方針等の見直しを検討し、教育活動に資する対応を進める。
現状	教育活動を推進する上で、教育課程の編成・実施方針等を全教職員間で情報共有している。また、外部有識者や学校関係者などから意見やコメントをもらい、その上で必要な対応や望ましい変更を議論し、学科長会議、評議員会、理事会で基本的な方針を策定してきている。
課題	毎年のように見直しを丁寧に行う意識づけが教職員に必要である。
解決 改善 方向	教育課程の編成・実施方針等の策定は教育効果を最大限にしていくという教育上の観点のみならず、学生や保護者からの要望を汲み取る姿勢を最大限に考慮していく観点もさらに丁寧に取り入れていきたい。

大項目	教育活動	中項目	目標設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学則に定められた教育年限で授業展開ができるように、シラバスや授業日程を作成すると共に、十分な学習時間を確保することを基本方針とする。
現状	教育課程の編成や実施方針に基づき学科内教員で話し合い、毎年シラバスを作成して、それらを全学で共有している。さらに、学生や保護者アンケートからの意見やコメントをもらい、外部有識者や学校関係者との会合を通じて、必要な改定を行っている。
課題	関連した専門科目間で内容の整合性や相補性の確認を行っているため、授業計画や教育目標には大きな問題はない。しかし、授業日程には変更が多いため、学生掲示板で随時連絡している状況である。
解決 改善 方向	教育到達レベルに関しては毎年の国試合格率などから分析しているが、改善のための新たな取り組みを進めていきたい。また、授業の時間の管理や学生への通知に関しては、共有ファイルを使ったリアルタイムの連絡システムを新年度に向けて導入しつつある。

大項目	教育活動	中項目	目標設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学校行事の適切な企画や円滑な運営がなされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学校行事の企画・運営を円滑に行うため、本校経営や学校活動を適切に実施する。
現状	年度末に学科長会議で次年度の方針を話し合い、理事長・理事会の承認うけて最終的には企画内容を決定している。今年度も感染症対策を考慮しながら、学校祭、オープンキャンパス、その他各学科のイベントの詳細については、学生委員会や各学科教員会議等で実施方法を議論し、対応してきた。
課題	年度計画にない企画が増えている。
解決 改善 方向	新型コロナ感染症が５類に移行した後では、確かに年度計画にはない企画が増える傾向にある。今年度は、市内専門学校との連携授業計画や地域貢献やボランテイア動などの新たな企画が出ており、速やかな対応ができる具体的手順を考えていきたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定、教育方法、評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	指導要領や指定規則に基づき、体系的なカリキュラム編成を基本として作成する。
現状	理学療法学科および作業療法学科カリキュラムは養成施設指定規則に基づき、作成・運用してきた。看護学科のカリキュラムに関しても、保健師助産師看護師指定規則を遵守して運用している。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

大項目	教育活動	中項目	カリキュラム・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	医療従事者育成のためのキャリア教育や職業実践教育による動機付けや啓発教育的視点を盛り込んだカリキュラム構成を基本方針とする。
現状	教育内容や教育方法に関する改善は必要に応じて常に試みている。コロナ禍で始まった対面授業とＷｅｂ授業の併用や学外実習へ対応は臨機応変に行ってきており、教育効果を最大限に高める取り組みを続けている。さらに、臨床教育に関しては、関連する病院や施設からの要望、教育課程編成委員会でのヒアリング、さらには、学生の実習状況等に応じて教育課程の充実や見直しの参考にしてる。
課題	コロナ陽性学生などに対するＷｅｂ授業を並行して行うことで、学生が不利益を被らないように学習に対する動機付けを継続すると共に、実習実習おける教育効果の向上を図りたい。
解決 改善 方向	Ｗｅｂ授業では、教員と学生の双方向の相互作用を高める為の創意工夫を実施してきた。また、職業実践専門教育を推進するため、企業等の連携を密にするのみならず、市内の各専門学校が持つ教育的資源の活用を進め、専門教育としての内容のブラッシュアップを次年度から推進していく計画である。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	カリキュラムの大枠は、指定規則や関連企業・関係施設等など実習指導者会議や実習先などでの教員研修を通じてえられる意見や要望を反映させていく。
現状	職業実践教育の改善に必要なことの一つは臨床現場からのフィードバックであり、本校では、毎年、各施設における実習指導者会議（看護学科）やバイザー会議（理学・作業療法学科）等で意見交換を行っている。さらに、学生や保護者からのアンケートによる意見の集約を行うと共に、業界や企業等の専門家とのカリキュラム会議（教育課程編成委員会など）、学校関係者からの評価などにもとづき、それらの結果を教育に反映させている。
課題	学外施設における実習に関しては事前の準備をしっかり行なっているが、実習中に何らかの問題を抱える学生が出てくる場合がある。
解決 改善 方向	学生がつまずく原因を常に考えその対応を進める一方で、実習を行っている学生のフォローを丁寧に進める対応を今後も丁寧に行っていくべきと考えている。また、そのような対応に関するノウハウを次学年の職業実践専門教育にも活かす創意工夫を継続して行きたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	関連分野における実践的な職業教育（実技・実習等）が体系的に位置付けられているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	指定規則に基づき、職業教育を体系化したカリキュラムとして作成する。
現状	作成したカリキュラムには概ね適切であり問題はないと考えられるが、実習に関わる知識や実技に学生の個人差が生じることは否めない。そのため、日頃の授業（講義、演習、学内実習）や学外実習前の事前学習を丁寧に行うだけでなく、学生の習熟度に応じた個別指導や学生の個性を考慮した実習先の割り振りやグループ編成を行っている。
課題	学外実習では、学生個人の知識、実技習得状況、コミュニケーション能力、学生の個性や性格などが実習における学習達成度に影響することがある。
解決 改善 方向	理学・作業療法学科の学外実習の学習達成度を高める準備として、希望する学生には課外時間での実技練習や指導の機会を提供している。また、興味や関心が高い学生には、他学年や他科学生と共に学べる連携教育を課外学習などとして推進させて行く計画である。

No　20

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	授業評価の実施・評価体制はあるか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	授業評価や学生アンケートを実施し、それらの意見や要望を本校の教育活動や学校運営に反映させる。
現状	学生による授業評価実施に関する申し合わせに基づき、学生による授業評価を行っている。さらに、教育活動や学校運営全般に関する学生アンケートおよび保護者アンケート調査を毎年実施しており、そのまとめを公表している。学外実習に関しては、実習後学生によるアンケート調査を実施している。
課題	学生による授業評価は専任教員に対して実施しているが、非常勤講師（外部講師）に対する評価は全教員に対してはまだ行なってはいない。また、授業評価の結果は学生にはフィードバックしているが、個々の教員名として公表はしていない。
解決 改善 方向	「学生による授業評価実施に関する申し合わせ」をさらに一歩進めたものに改正する必要があるだけでなく、公表に関しても一歩前進させて行きたい。また、同僚評価や外部評価等も検討して行きたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	職業実践的教育に関して企業等の外部関係者からの評価を取り入れているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	実習病院・施設担当者と常に連携して、学外実習（臨地・臨床実習）の環境整備や実習内容を整えていく。
現状	実習施設側との連絡を密にしており、実習内容が職業実践教育にふさわしいものになるように常に協議を重ねており、様々なアドバイスを頂いている。実習における学生評価については実習指導者は公正かつ客観的に行っている。さらに、教員への指導助言に基づき、本校実習担当教員は学生の最終的な総合成績評価を実施している。
課題	本校の学外実習は同一科目であっても複数施設で実施している。
解決 改善 方向	実習環境、教育内容、学生評価などに関して施設間による差異が生まれないように、実習内容や評価に関する統一的な基準で進めるための打ち合わせを、毎回本校教員と実習施設指導者間で行って行きたい。また、実習前には実習学生に関する情報を共有してもらい、各学生にとって教育効果が最大限に発揮されるような配慮を今後も進めていく必要がある。

大項目	教育活動	中項目	成績評価・単位認定			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学則に記載された成績評価および単位認定基準に従い、各科目ごとの詳細な評価基準等はシラバスに明記する。
現状	学科会議で、各科目の成績判定・単位認定は学年ごとに実施している。各科目の最終判定は、秀・優・良・可・不可の区分で行っている。
課題	異なる実習施設で行った学外実習の場合、公正な成績評価を実施する努力は常に求められる。
解決 改善 方向	成績評価基準が明確であるため、同一科目に関して同一条件で実施した教育の成績判定には問題はない。しかし、学外実習などでは、実習施設の教育環境や担当者と学生の組み合わせが異なるため、公平さを担保するための統一基準や施設実習担当者と教員との話し合いを丁寧に行う努力が求められる。それゆえ、公正で客観的な成績評価を実施する慎重な対応を今後も継続していく必要性がある。

大項目	教育活動	中項目	資格・免許取得の指導体制			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	資格取得のための指導体制やカリキュラムでの体系的な位置づけはあるか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	資格取得の指導体制強化やカリキュラム内でその体系化をはかり、学生の学習意欲の持続や国家試験合格率向上を目指す。
現状	学科内教員が協力する指導体制をとっており、体系化されたカリキュラム内で連携をはかってきた。学生を小グループ別に分けて行う国試対策のためのグループ学習では、グループダイナミクスを最大に引き上げる支援を行ってきた。コロナ禍で低下した理学・作業学科の合格率は徐々に以前のレベルまで回復しているが、作業療法学科ではまだ以前の状態までは戻っていない。看護学科の合格率はコロナ禍の影響は少なかったが、今年度はやや例年より低くなってしまった。
課題	毎年、一部の卒業生が国家試験の不合格者となってしまう。
解決 改善 方向	国家試験合格率の向上と不合格者の再挑戦に向けたサポート体制を強化をしてきたが、目標達成には至っていない。そこで、もう少し低学年から各学年の学びを履修する取り組みが基礎学力の強化につながると考えており、そのための戦略を体系的な学びにつなげる取り組みを模索して行きたい。また、学科の枠を超えた指導体制を構築することも実施して行きたい。

No　24

大項目	教育活動	中項目	資格・免許取得の指導体制

小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	非常勤講師との連携を深め、学生の実態にあった指導方法改善をはかっているか。	4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学科長や担任等が科目担当者（非常勤講師）との連携を密にし、学生の理解度を高め、ひいては学習意欲向上を目指した取り組みを実施する。
現状	学科長や担任は科目等担当者（主に非常勤講師）と連携し、学生に関する情報や学生の習熟度などを伝達し、授業の改善を依頼している。また、同意を得られた非常勤講師に対して学生による授業評価を実施し、その結果をフィードバックしている。
課題	学生により授業評価の実施率が低い。
解決 改善 方向	非常勤講師との連携は様々な機会で進めているが、教員が感じた授業を受ける学生の理解度だけでなく、学生による授業評価もできる限り速やかにフィードバックしていく体制をとっていきたい。

大項目	教育活動	中項目	教員・教員活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	人材育成目標に向けた授業を行う要件を備えた教員を確保しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	医療職者としての人材育成を目指した授業を行うため、指定規則で明記されている要件を備えた専任教員数を確保し、維持する。
現状	教員の新規採用にあたっては、教育に意欲的で熱心な教員を確保してきており、医療職者育成の教育が適切に実施されている。また、教員の男女比は、学科ごとの偏りはあるものの、全体でみれば、ほぼ１：１である。
課題	専任教員のターンオーバーがそれほど多くない。
解決 改善 方向	新規採用にあたっては学科ごとの教員の専門性から考えられるバランスを考慮した採用を心がけており、可能な限り公募で行って行きたい。教員に対する研修制度を充実させることにより、教員資質の向上や人材育成の取り組みを進めていく計画である。

大項目	教育活動	中項目	教員・教員組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	望ましい教職員を確保するため、関連企業提携先の確保などのマネージメントを行っているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	関連企業との連携において情熱と適切な経験をもった優れた教員を確保を目指す。
現状	教育の質を担保するため、望ましい専任教員や非常勤教員の確保に関して、関連分野の企業等との情報交換を常に行っている。また、同窓会や職能団体との連絡を密にしている。このような中で、前年度、理学療法学科において女性教員１名が採用できている。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

No　27

大項目	教育活動	中項目	教員・教員組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための教員研修や指導力育成をはかる取り組みがおこなわれているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	教員研修や指導力育成の機会を最大限活用し、各教員が教育へのモチベーションや能力向上を目指して、学生教育や学校活動全般に大きく貢献する。
現状	各職能団体や関連企業等の研修会、学会・研究会、大学院進学、臨床現場での経験、地域・社会貢献などの参加や実施を各教員に推奨している。
課題	参加教員は必ずしも多くない。
解決 改善 方向	学内研修会を開催したり、関連企業との連携を強化して行きたい。さらに、現行の研修制度の見直しや働き方改革などの新たな発想を取り入れた研修環境も整備していく必要がある。

No　28

大項目	教育活動	中項目	教員・教員組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生の職業観育成の取り組みが図られているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学生の自己啓発や自己実現をするための方策が実践できるように、教員は常に学生の職業観につとめる。
現状	学生が専攻した学科の専門職に対する意識を高めるために、ロングホームルームや課外時間を活用して、学生の自己理解、自己啓発、さらには、自己実現が可能になるような教員講話や各種イベント参加（ボランティア活動、学内あるいは学科内研修会、学会や研修会参加）などの機会を設けてきた。
課題	課外活動は強制ではないこともあり、参加学生は必ずしも多くない。
解決 改善 方向	施設見学、本校卒業生からの講話、就職ガイダンスなどの機会を増やし、職業観や倫理観の育成につながる機会を増やしていきたい。

大項目	学習成果	中項目	就職率			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	卒業予定者（新卒者）の就職率の向上が図られているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業予定の就職希望者に対して毎年１００％の就職率をめざす。
現状	今年度の卒業予定者（新卒者）の国試合格率は全国平均をやや下回ったため(ＰＴ９４.１％、ＯＴ７２.７％、ＮＳ８８.６％)、卒業生全体の就職状況は１００％には届かなかった。過年度卒業生の国試合格率は全国平均を大きく上回った。
課題	国家試験不合格者の場合、就職先確保や次年度国家試験対策に向けた学習支援は必ずしも十分ではない。
解決 改善 方向	卒業予定者のみならず、前年度国家試験不合格者への国試受験のための学習支援強化策が最重要課題の一つとして新たに実施して行く計画である。

大項目	学習成果	中項目	資格、免許取得率			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	資格取得率の向上が図られているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業予定者全員の国家試験合格を目指し、国家試験対策を早期から丁寧に行う。
現状	今年度の国家試験合格率は、３学科の平均としては前年度よりやや低かったが、ほぼ同じレベルであった。国家資格の合格率があるレベルに保たれているのは、習熟度別小グループ編成による自主的な学習をしてきた学生の努力によると考えれれるが、一方では、各学科の教員の熱心な学習指導によるものと考えられる。
課題	さらなる合格率向上を目指す余地がある。
解決 改善 方向	最終学年の国試対策はきわめて効率的であり、評価に値する。ただ、さらなる合格率向上には、より早い学年から基礎的な学びの習熟度を高める必要があり、学科の横断的な勉強会（自主セミナー）のような対応、あるいは異なる学年も加わった補講などを考えていきたい。

大項目	学習成果	中項目	卒業生の社会的評価			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	卒業生や在校生の社会的な活躍を把握し、評価しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	同窓会や就職先の病院との連携により、各学科の卒業生動向や社会的活躍の状況を把握する。在校生に関しても学習状況だけでなくボランティア活動や地域貢献に関する現状を把握する。
現状	卒業生は道北道東の医療機関に就職するケースが多く、社会的活動状況の把握が比較的容易である。在校生に関しては、成績優秀者や学内外の活動が顕著であった学生を把握し、規程に従って各表彰を行なっている。
課題	同窓会活動が必ずしも活発でなく、卒業後の年数経過と共に、状況把握が次第に難しくなる卒業生が増えている。
解決 改善 方向	卒業生の社会的活躍に関しては、同窓会、学校教員主催の研究会・研修会、職能団などの活動を通じて調査して行きたい。名簿作成や同窓会便りなどを発刊しながら、情報把握を継続して行きたい。

大項目	学習成果	中項目	卒業生の社会的評価			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	卒業生支援による学生のキャリア形成や学校教育活動の改善を進めているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生と教員が主体的に研修会等を実施し、在校生のキャリア形成や教育活動を推進していく。
現状	各職能団体や本校と実習施設とで開催されるバイザー会議などの活動を通じて、卒後研修やキャリア形成などの勉強会開催などがＷｅｂ会議あるいは対面方式で実施できている。特に、本校卒業生が学外実習で実習施設実習指導者となる場合が少なくないため、教員と卒業生との対応を通じて様々な在校生の教育に関わってもらっている。
課題	本年度初めまでは、Ｗｅｂ対応でなされていた学内外の研修会が多くされていたので、対面による直接教育は必ずしも十分ではない。
解決 改善 方向	新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、しばらく開催が低減していた活動学内・外研修会は今後増加することが期待される。また、学校を訪問する卒業生と在校生の交流の場も増やす可能もある。今後は、カリキュラムで展開される様々な授業に卒業生の招聘をはかり、キャリア形成的教育の実施に向けて計画を立案し、実行していきたい。

大項目	学習成果	中項目	中途退学への対応			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	退学率の低減が図られているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	在校生の可能性を伸ばすあらゆる支援を行い、退学率の低減をはかる。
現状	理学療法学科、作業療法学科、および、看護学科の今年度退学率は、それぞれ５.９％、７.５％、および、８.３％であった。看護学科では１０％ほどとやや多くなった。従って学校全体では７.３％となり、目標とする３％を大きく逸脱した。
課題	学習意欲を持てないため学力不足となって退学したり、休学を経て進路変更で退学する傾向がある。
解決 改善 方向	学力不足や学習意欲が原因となる場合、基礎学力やコミュニケーション能力の向上強化をはかる。３学科の横断的な修学支援体制を整備する計画を進めていきたい。メンタル面の問題がある場合、専門家を交えたサポート体制を進める必要がある。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生相談に対する体制は整備されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学生の就学上の問題解決をはかる体制を整備し、学生生活を支援する。
現状	各学年の担任を中心に、学生が抱える修学上の問題解決を図る相談や対応をしっかり進めている。必要に応じて、学生や保護者を交えた三者面談を実施している。その他、学科長も含めて面談に加わることで、個々の問題解決をはかってきた。
課題	担任や同じ学科の教員に相談したくないケースも想定される。
解決 改善 方向	目安箱（投書箱）の設置や学科の教員以外の対応ができる学生相談室の開設を進めて行きたい。また、必要に応じて心理カウンセラーなどの専門家が担当する対応も計画的に進めていきたい。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生の経済面に対する支援体制は整備されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	日本学生支援機構をはじめとするに各種奨学金制度や本校独自の学生支援制度（報奨制度）の説明を丁寧に行い、奨学金を必要とする学生・保護者に適切な情報提供をおこなう。
現状	経済的支援を必要とする学生・保護者あるいは本校への進学希望者からの相談を受けながら、各種奨学金制度等の説明を行っている。また、本校独自の報奨制度が在校生の学習意欲向上のモチベーションになるように制度運用を行っている。
課題	本校入学前は入学後の学生に対して奨学金活用法のみならず、奨学金返還に関するルール等も含めてより総合的に説明するべきであり、その対応に関わる人員を増やすべきであると考えられる。
解決 改善 方向	奨学金担当職員が奨学金支援制度の説明資料を早期に作成しホームページや学校案内で大まかな説明を行ってきたが、今後は、各学年担任や学校説明に関わる教員が基本的なルールを説明できるような取り組みを進めていく予定である。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	定期健康診断、校内救急対応、感染症予防対策、心身の健康把握などを行いながら、学校の衛生環境の保持や学生の健康管理につとめる。
現状	法令に基づく定期検診やインフルエンザ予防接種は学内で実施すると共に、新型コロナウイルス予防接種の案内や感染症に関わる情報提供は必要に応じて適宜行っている。特に、病院実習参加者の健康診断などを含め、健康管理に関わる問い合わせに丁寧に対応している。また、学生や教職員には日常の健康管理チェックシート記入をアドバイスしている。
課題	メンタルな問題への対応は必ずしも十分に対応しているとはいえない。
解決 改善 方向	日頃より心身の健康維持のため、担任を中心とした学生本人との面談、保護者を交えた三者面談の実施、あるいは、外部カウンセラーと相談できるシステム作りを推進していきたい。

No　37

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	新型コロナウイルス感染対策を担う組織体制はあるか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、本校独自の基準や行動指針を策定し、学生教職員に周知していく。
現状	国、道、市の指針を参考に本校独自基準の作成し、学内やホームページ等で周知しながら、行動指針に基づく円滑な教育活動を進めてきた。具体的には、感染対策委員会あるいは学科長会議を定期的に開催し、学内の感染学生に関する情報共有を行っている。また、学生個々人に対しての電話相談などを介して、感染防止対策、ワクチン接種やPCR検査など受診、さらには、登校の可否などの判断についてアドバイスを行ってきた。
課題	校内での感染拡大を防ぐのみならず、自宅待機となった学生に対する学習支援も丁寧に進めていくべきと考えている。
解決 改善 方向	５類へ移行となった新型コロナウイルス感染症のみならず、学生の健康全般に相談対応を一年中継続するため、３学科学生の情報共有を頻繁に行う仕組みを進めていく。それらの情報で必要なものは時間割管理ファイルに追加情報として掲載していく予定である。

No　38

大項目	学生支援	中項目	ハラスメント対策			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	各種ハラスメントの防止を心がけながら、教育環境の充実をはかる支援はなされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学生が有意義な学生生活を過ごすことができるよう、ハラスメント防止規定等に従った対応を進め、教育環境の充実をはかる。
現状	学生アンケートや保護者アンケートから得られる問題の解決を図ることに加え、日常的には、担任による学生対応を通じて、各クラスの学習環境を良好なものとなるような働きかけを行っている。
課題	ハラスメント防止規定（案）や同防止委員会規定（案）をよりブラッシュアップし、より細やかな対応を推進して行く必要がある。
解決 改善 方向	外部講師により心身の健康セミナーやハラスメント対策などのテーマで全学研修会を開催していく計画である。

No 39

大項目	学生支援	中項目	保護者との連携			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	保護者と適切に連携しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学生、保護者、教員間での連携を密に行いながら、学生生活の充実を目指す。
現状	入学時に保護者説明会を開催し、学校の方針を説明している。年度の途中には、学生・保護者・教員による三者面談を実施しており、教育活動や個々人の修学状況などについて個別の話し合いをしている。学校情報全般に関しては、ホームページや隔月発刊のメールマガジンなどを利用して保護者に提供してきた。特に、学業不振者や修学上の問題を抱えた学生には担任が中心になって早めの対応を心がけてきた。
課題	学生に何らかの就学上の問題が生じた場合、各クラスの担任だけでなく学科教員全員で、学生や保護者との速やかな連絡・連携を図るべきと考えている。
解決 改善 方向	日常的に保護者との連携を密にはかるため、学生・保護者による授業時間割の確認、定期的な学校情報の提供、担任と学生の面談、担任や学科長による保護者との面談などを通じて、保護者との双方向の連絡連携を積極的に進めていきたいと考えている。

No　40

大項目	学生支援	中項目	卒業生・社会人			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	卒業生への支援体制はあるか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生と在校生・教職員との交流を高め合い、各医療分野で協働しながら卒業生の地域貢献を支援する。
現状	卒業生が気軽に学校を訪問しやすい雰囲気作りに心がけており、卒業生と教員の交流はうまくなされている。国家試験不合格者に対しては模試や国家試験対策に加え、就職および再就職支援を在校生に対すると同様に行ってきた。一方、就職後のステップアップを考えている卒業生には、各種研究会の紹介や大学院進学などの情報提供をしている。同窓会を介した研修会や同窓会開催で交流を深めるとともに、転職、専門性の向上、学術活動の提案、社会貢献活動などの相談にも応じている。
課題	卒業生と教員や在校生の交流会開催はコロナ禍で低調になっている。
解決 改善 方向	学術活動、研修会、地域貢献、同窓会活動などに積極的に参画している卒業生には、要望に応じた支援を充実させていきたい。また、卒業生の経験を在校生や本校入学希望者に紹介してもらう機会を増やしていきたいと考えている。

大項目	学生支援	中項目	卒業生・社会人			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	関連分野における業界との連携による再教育プログラムを行っているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生の再教育や在校生の職業実践的な専門教育を推進するため、同窓会、理学作業療法士会、看護協会、実習関連医療機関などとの連携教育をはかる。
現状	本校で開催する学習会、研修会、学会・研究会、あるいは、同窓会などでは、 対面方式やＷｅｂ方式を採用しており、積極的な卒業生や在校生の参加を促している。
課題	卒業生の研修会参加者数がなかなか増加しない問題がある。本格的な再教育あるいは専門教育プログラムへの発展を進める機運が育っていない。
解決 改善 方向	同窓会や実習病院スタッフとのバイザー会議などでは、実習指導者指導者に限らず、卒業生や在校生の参加をさらに推奨したい。その上で、各再教育あるいは専門教育を組織化し、再教育プログラムや学術活動も含めて計画の立案、実施を進めていきたい。

No　42

大項目	教育環境	中項目	施設・設備等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	施設・設備等は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	リハビリテーション分野や看護の医療現場を想定した最新設備を導入し、将来の医療現場に近い学習環境で学生の学びを支援する。
現状	現在までに、ほぼ必要な設備や備品類は導入されていて、頻繁に使う機器の修理や保守は定期的に行っている。不足がちな消耗品は年間予定に合わせて補充している。ただ、経年劣化が激しい機器類も存在するため、修理や購入、あるいは、その両方を考えながら計画的に整備している。
課題	ＩＣＴが進む中での教育環境では、新たなシステム導入が必要になると考えられる。
解決 改善 方向	新規の実習設備や機器類の購入などは年次計画を立てながら、進めていく予定である。

大項目	教育環境	中項目	施設・設備等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	図書館 ・自習室利用の活性化が図られているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学生が図書館や自習室を利用しやすいようなルール化をはかり、学生の自学自習を支援する。
現状	通常時は朝８時半から夕方５時１５分まで開館しているが、学生の利用がない時間帯は施錠している。ただし、図書館利用の希望があれば、いつでも事務職員が対応しており、コロナの５類移行に伴って利用者が増加してきた。自習室は、原則施錠せず、常時開放してる。
課題	図書館の会館時間の延長や休日利用の要望がある。
解決 改善 方向	図書の紛失の可能性はあるが、学生の利便性を高めるため図書館を施錠せず開放したり、放課後開館時間の延長を図るべく学生ボランティア等による開館延長を実施していきたいと考えている。

大項目	教育環境	中項目	学外実習・インターンシップ等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	実践的で専門性のある体験実習に主眼を置いて、学内外の実習を鋭意進める。インターンシップや海外研修はカリキュラム内に該当科目として用意されていないが、新たな時代に合う柔軟な対応をはかっていく。
現状	学内外の実習は系統的にカリキュラムに配置されており、職業実践専門教育の目標に合致した内容に充実させてきている。また、実習先における実習指導者とバイザー会議、学生情報の共有、教員の実習地訪問、などで綿密な打ち合わせを行い、実習環境の整備を行なってきた。
課題	海外研修は年間の授業計画に組み込む時間的ゆとりがないため、正課の授業として展開するのは難しい。
解決 改善 方向	インターンシップを産学官共同で構築していくため、今１年間、関連企業での実務経験や共同研究などの研修を教員が受けている。現在、レセプト（電子カルテ）に関する連携授業は他の専門学校と協議している。また、海外研修は実績のある他校からのノウハウを取り入れ、本策定を準備していきたい。一方、海外留学生の受け入れのための募集を進め、海外留学経験を持つ教員による対応を進めていきたい。

No　45

大項目	教育環境	中項目	防災・安全管理			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	防災体制は整備されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	震災や火災などの災害から学生及び教職員の生命身体の安全確保に資するため、法令遵守と整備を進め、防災訓練等を定期的に実施する。
現状	防災設備は消防法などに規程に従い、必要な整備は計画的に整えつつある。毎年の避難訓練は消防署員の指導のもと年２回実施している。その１回は、学生や教職員が実際に消火模擬訓練を実施しており、もう１回は事務職員により専門的な観点からの訓練を行いながら、全学的に防災意識を高めている 。
課題	防災や防火に必要は備品等の数量は必ずしも十分ではない。防災訓練にマンネリ化がある。
解決 改善 方向	防災用具の整備については、年次計画に従って進めていく予定である。訓練にマンネリ化があることは否めないが、防災意識を高める観点から、焦ることなく落ち着いて対応することが第一と考えられる。ただ、学校としても防災週間などを設定し、その期間で防災に関する意識づけのための何か創意工夫を重ねていきたい。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	高等学校等に対する情報提供などの取組を行っているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	道北・道東の医療のあるべき姿を旭川近郊や道東・道北の中高生に伝え、本校の特徴や教育理念等を具体的に説明する。
現状	広報課担当職員２名が、各高校を訪問している。道内各地あるいは高等学校主催の進学説明会等にも積極的に参加し、道内の医療や本校に関する情報提供を行なっている。また、ホームページやＳＮＳなどの媒体を活用した広報活動も行っており、オープンキャンパス参加者や学校案内希望者に体験実習などを経験してもらっている。
課題	働き方改革が進みつつある現代では、医療職を希望する生徒数が徐々に増加しつつあるが、逆に、中高生への情報提供や職業体験の場は必ずしも十分ではない。
解決 改善 方向	看護職やリハビリテーション専門職に関する説明の機会を増やすため、本校でも中・高校生のインターンシップを学校内で実施し、出前講座による対応をさらに強化していく。現在実施しているホームページやＳＮＳなどを活用に関しても、本校の教育内容や課外活動をより多く紹介していく計画である。さらに、市内での啓発教育イベントにも、医療関係専門学校の一つとして積極的に参画していく計画である。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生募集活動は適正に行われているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	旭川市やその近郊のみならず道北・道東の高校生に対して学生募集を行う。さらに、全道からの入学生を受け入れる方針を進めていく。
現状	進学相談会や高校訪問などにできるだけ参加し、医療職の将来性や本校の特徴を具体的に説明している。さらに、オープンキャンパス、出前講座、本校開催の職業体験などを通じて、医療職への理解と学生募集活動を進めている。
課題	１８歳人口が減少する中、本校理学療法学科や作業療法学科の入学者数が伸び悩んでいる。
解決 改善 方向	医療職の重要性が増大している現状を、道内外の中・高生に伝える活動を丁寧に進めて行きたい。また、キャリアアップを図る社会人の学び直しや外国人留学生に対する進路選択としての広報活動も広げ、医療職を目指す入学者の確保につなげていきたい。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	各学科の資格取得者数や就職状況を公開し、高校生や保護者に的確な情報提供を行う。
現状	高校訪問・オープンキャンパス・進学相談会などに於いて、訪問者や相談者などに対して、資格取得者数や就職状況などの正確な情報提供を行っている。また、ホームページや学校案内などでも最新情報を提供し続けている。
課題	国家試験合格による資格取得率を正確でわかりやすい情報として提供すべきと考えている。
解決 改善 方向	正確な情報提供をする上では、わかりやすさを伝える工夫が必要である。本校では、コロナ禍が始まった最初の２年間で資格取得率の急激な低下が起こったが、現在ではようやく回復基調にある。正確な情報提供を目指すと共に、資格取得者率改善の方策を同時に進める対応が必要と考えている。

No 49

大項目	学生募集	中項目	入学選考			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	入学選考は適正に行われているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	理学・作業療法学科及び看護学科の入学試験を受けた受験生から、入学試験選考会議の議を経て、厳正かつ公平に合格者を選考する。
現状	本校規定に基づき、入学試験を実施している。合否判定は、各学科ごとに入試選考会議を開催して、合格者を適正に選考してきた。入学試験の面接は、面接評価基準を参考に公平な評価がなされている。また、面接担当者には、受験生の家族や親族者がいないことを確認している。
課題	入学選考は概ね適切に実施できていることから、特に課題となることはない。
解決 改善 方向	恣意的な評価が入りやすい受験面接では評価マニュアルを見直す、面接員の構成の偏りをなくす、質問項目にかかるガイドラインを充実させるなどの観点から今後も定期的に面接の適正さを検証していく計画である。

大項目	法令等の遵守	中項目	法令関係・設置基準等の遵守			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な財政基盤を維持した、健全な学校運営がなされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	専修学校設置基準及び各種法令、理学療法士作業療法士、看護師学校養成施設指定規則等に基づき学則を定め、法令を遵守しながら安定的な財政基盤を持って、学校運営を行う。
現状	上記規則に基づき、施設、編成、教育内容、単位数等を定めており、学校活動を誠実に進めている。また、現在の在校生数は定員を満たしてはいないが、資産が負債の２０倍ほどあるため、今後の学校経営を維持する上では財政基盤は安定している。
課題	特にない。
解決 改善 方向	特にない。

大項目	財務	中項目	監査			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	財務に関して会計監査が適切に行われているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	会計年度終了後に２ヶ月以内に学校法人会計基準に従って財務書類等を作成する。その後、会計監査を受け、合規適性な運営に資する。
現状	会計年度終了後に２ヶ月以内に学校法人会計基準に従い、財務書類等を作成している。その後、監事による会計監査を受け、合規適性な運営がなされていることを確認し、６月末までにホームページ上で公開している。
課題	会計処理が適切になされており、特に問題はない。
解決 改善 方向	税理士による専門的な立場からの会計処理のチェックを行っており、人為的なミスが起こらないようなチェックを複数名で担当することで、今後もこの対応を継続していく計画である。

大項目	法令等の遵守	中項目	法令関係・設置基準等の遵守			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な財政基盤を維持した、健全な学校運営がなされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	専修学校設置基準及び各種法令、理学療法士作業療法士、看護師学校養成施設指定規則等に基づき学則を定め、法令を遵守しながら安定的な財政基盤を持って、学校運営を行う。
現状	上記規則に基づき、施設、編成、教育内容、単位数等を定めており、学校活動を誠実に進めている。また、現在の在校生数は定員を満たしてはいないが、資産が負債の２０倍ほどあるため、今後の学校経営を維持する上では財政基盤は安定している。
課題	特にない。
解決 改善 方向	特にない。

大項目	法令等の遵守	中項目	個人情報の保護			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	個人情報保護のための対策がとられているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	個人情報保護の観点から考えられるあらゆる防止策を講じた上で、学生や教職員の個人情報管理に万全を期す。
現状	個人情報の管理は、職員室、事務室等の書庫で保管している。ＰＣ管理は、サーバーに制限フィルターをかけ、アクセス権やパスワードにより関係者以外は確認出来ない体制をとっている。教職員と学生利用のサーバーは別々に管理している。個人情報に関しては、本人の承諾内容の範囲で業務に適切な運用をしている。学外実習等で得た個人情報は施錠可能な保管庫で保管し、情報漏洩がないように使用後の廃棄は確実に実施している。成績証明書等の発行は、本人の申請に基づき学科の確認を経て、発行・交付している。また、教職員は守秘義務の遵守をここrがけている。
課題	個人情報保護に関する規程を定めていない。
解決 改善 方向	個人情報保護規定を作成し、在校生、卒業生、あるいは、受験生の個人情報保護と管理体制をより徹底強化していく計画である。

No　54

大項目	法令等の遵守	中項目	学校評価			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	毎年、自己点検・自己評価を行い、学校運営や教育活動の改善に資する。
現状	毎年、本校の教育活動や事業に関して自己点検・自己評価書、学生アンケート、保護者アンケート、事業報告書、会計報告書、学校関係者報告書などの資料を作成し、学校運営や教育活動の改善に活用している。また、改善すべき項目には優先順位をつけて対策を講じており、その上で、次年度の業務計画を作成する上の参考にしている。
課題	現在、学校関係者による評価を受けているが、看護学科は第三者評価を受けてはいない。
解決 改善 方向	看護学科に関しては道庁からの指導調査は受けているが、今後、第三者評価を受ける体制を整備していく。

大項目	法令等の遵守	中項目	教育情報の公開			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	自己点検・自己評価結果を公開しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	自己評価結果などの学校情報はホームページに掲載し、本校教育活動および事業活動の概要を公開する。
現状	毎年、自己点検・自己評価書のみならず、学生アンケート、保護者アンケート、学校関係者評価結果などを学校情報としてホームページ上で公開してきている。
課題	保護者アンケートでは、学校のことがよくわらないとする保護者の意見は２５％前後である。
解決 改善 方向	ホームページ上で公開していることをもっと確実に保護者に伝える方法として、マチコミやメルマガによる情報配信、ＳＮＳ、YouTubeなどを充実させて行きたいと考えている。また、ホームページに全面改定を進め、中高生、在校生、保護者、市民、卒業生、さらには、関連企業等の方々が閲覧しやすい内容として情報提供していく計画である。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	社会貢献・地域貢献			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	本校施設や人的資源を活用し、地域住民の健康増進や疾病予防に貢献する。
現状	毎年、医療・福祉関係団体等、地域の団体、小中高生の関連サークル、他の専門学校などから設利用の申し込みがあり、これら全てにほぼ対応している。また、旭川市や近隣市町村からの要請に応じて出前講座を行なっている。新型コロナ禍では各種交流会やサービス提供を自粛せざるを得なかったが、徐々に地域住民の健康増進のための健康体操などを手掛かりに、社会福祉協議会と連携し、地域住民の健康増進やその他の活動に貢献している。
課題	徐々に利用者が増加している。
解決 改善 方向	本校での授業に差し支えない限り、地域の方々に利用の便宜を図っていく予定である。ただ、校舎内での利用に関しては、管理上の対応をしっかりと進める必要がある。例えば、もし感染症対策が再び必要となってきた場合、本校では医療機関での実習が予定されている学生が多い本校の特殊性を理解してもらう対応などを含め、合理的な利用ルールを整備していきたい。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	ボランティア活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	地域住民の健康増進・疾病予防を目指したボランティア活動の学生参加を奨励・支援しながら、地域との連携や協力体制を確立していく。
現状	ボランティア活動（老健施設でのお祭り企画や高齢者の勉強会のサポート）に関しては、教員や学生の参加はコロナ禍で自粛する状況にあったが、次第に実施できる環境が戻りつつある。学生サークル活動が活発になるにつれ、正規の実習活動のみならず課外活動でも学生参加を推奨している。新規活動については校内掲示するが、教職員によるボランティア活動にも学生参加を促してきている。
課題	今後のボランティア活動の増加が予測される。
解決 改善 方向	地域貢献のボランティア活動へ学生が参画することは一般的には望ましいと考えられる。今後、学生団体などとの話し合いを進めながらボランティア活動を学校が推奨、支援する対応を考えていきたい。同時に、ボランティア活動の全体を把握していくため、教員と学生の話し合いを常に進めていきたい。

No　58

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	研究倫理規程			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	ヒトを対象とした臨床研究推進のための規定等を整備しているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	理学療法学、作業療法学、看護学の各領域における臨床研究を実施するため、ヒトを対象とする研究倫理規程を作成し、定期的に見直しをする。
現状	ヒトを対象とする研究倫理規程および研究倫理委員会規程を定めており、それらの定期的な見直しを進めている。毎年、これらの規定に従って、申請される研究の妥当性を評価している。現在、継続中の申請は２件である。
課題	コロナ禍では新規研究の申請が少なかったが、今後増加することが予測される。
解決 改善 方向	規定が整備されているため、研究推進に向けて各研究計画をチェックしながら、今後も必要な対応を適宜指導していきたい。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	研究推進			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	ヒトを対象とする臨床研究推進のために研究担当者への支援を行っているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	理学療法学、作業療法学、看護学の各領域における臨床研究を実施するため、研究資金、研究スペース、共同研究あるいは、外部資金獲得を進める。
現状	現在、本校で進める研究はアンケート調査が主体であり、設備等をそれほど多く必要としてない。また、本校設備や備品類は授業に支障がない限り利用が可能であり、消耗品等に関しては教育研究費から支出している。
課題	外部資金の獲得実績はまだない。
解決 改善 方向	現在、学校設備や教育研究費の活用で研究がなされているが、今後、国、道、市町村、財団法人、民間会社など外部資金に研究担当者が積極的に応募していけるよう外部資金獲得を支援し、その獲得を実現していきたい。

Ⅴ 終わりに

令和５年度の自己点検・自己評価報告書をまとめてみると、前年と比べて大きな変化を見せた数項目が確認された。一つは、学生入学数が著しく減少し、３学科ともに１００％の定員充足ができなかったことである。さらに、この数年少しずつ改善されていた退学率数の減少傾向が増加に転じてしまったことなどもあげられる。

これらの変化に対して様々な要因が考えられる。その解析はどうあれ、少なくともこれまでと同じような対策を繰り返すだけでは、これらの問題的を改善し、本項を取り巻く状況を大きく改善することはできないと考えられる。

しかしながら、近未来における医療職のニーズ、それらの意義、あるいは、かなり先の将来の見通しについて、若い世代の人たちに丁寧に説明して理解してもらえるように、より積極的な働きかけを今後も継続していくべきであろうし、これまでの戦略に加えて新たな対策も果敢に実行していくべきであると考えられる。本校の人材あるいは学校施設等を使って、広報活動、教育活動、さらに地域貢献を進めていく上で、まだまだなすべき事柄も多く存在すると考えている。

それゆえ、令和６年度も、本報告書を参考にしながら、本校教育および事業活動全般に関して、教職員全員がなすべき問題解決に正面から対峙して果敢に改善案を実行していくことを期待したい。

最後に、本校の令和５年度の学校教育運営活動に尽力頂いた教職員に感謝を申し上げる。

令和６年６月３０日

学校法人　稲積学園
北都保健福祉専門学校
理事長　　稲積　実佳子
校　長　　林　　要喜知
本部長　　開田　仁　司